

11月21日（月）、本校において、公開授業研究会が行われました。

校内研究の『地域のひと、もの、ことを活かした授業づくり ～自分から考え、動く子どもの育成をめざして～』のテーマに基づき、小学部と中学部の授業を公開しました。

山口大学教育学部教育学研究科東アジア研究科 教授の松岡勝彦先生に指導助言者として来ていただきました。

本校教職員のほか、近隣の教職員や関係諸機関の方々にも多数参加していただき、分科会でも活発な意見のやりとりが行われました。

当日の授業の様子を掲載します。

〈小学部〉生活単元学習 『さつまいもパーティーをしよう』



本単元の導入で地域のお菓子名人にさつまいもを使ったお菓子作りを教してもらいました。「やってみたい!」「かかわってみたい!」という気持ちを高め、お客さんに「芋きんとん」のお菓子を作ってふるまいました。お客さんに話しかけてもらったり「おいしい」と喜んでもらったりすることで、子ども達から嬉しそうな表情が見られ、「また会いましょう」などの声を聞いて、次の時間への意欲を高めている様子がありました。

〈中学部〉生活単元学習 『よこたまつりをしよう』



地域の名人に来ていただき、「よこたまつり」の展示物作りをしました。横田地区の昔の様子を紙芝居で見聞きした後に、芋判や枝を使って風景画を作ったり、習字で文章を作ったりしました。意欲的に活動に取り組み、名人から教してもらった子ども達は、さらにやる気を出していました。最後は、みんなが自分の作品を誇らしげに発表する姿がありました。

〈分科会〉小学部、中学部



分科会では、各学部でグループに分かれ、研究の視点に基づきながら意見交換を行いました。地域のリソースを活かした授業づくりをポイントに、子ども達の思考する姿や改善点について、様々な立場から意見交換を行いました。

〈全体会〉

授業者からの自評をもとに、松岡先生からの指導・助言をいただきました。ご専門である応用行動分析の観点からも具体的なアドバイスをたくさんいただきました。地域の方を意識する手立てとしてビデオや写真を活用すること、不適応行動に対する対応の仕方、少しずつ支援を減らすことで、自分から取り組む姿を引き出していくこと等を指導・助言していただきました。授業の具体的な場面を取り上げて指導していただくことで、子どもの主体性を引き出すことや支援をレベルアップさせていくことなど、本校の研究にとっても、有意義な時間となりました。